工学研究科

第1章	理念・目的	1
第3章	教員・教員組織	7
第4章	教育内容・方法・成果	
1	教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針	14
2	教育課程・教育内容	21
3	教育方法	27
4	成果	34
第5章	学生の受け入れ	39
第7章	教育研究等環境	46

2016 年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準 No	基準項目
1	理念・目的

理念・目的は大学のもつ個性や特徴を明らかにするものであると同時に、学問の自由を保障し、「広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」(学校教育法 第 83 条第 1 項)という大学の目的にも沿い、最高の教育機関として、また、学術文化の研究機関として、ふさわしい内容を有するものであることが必要である。

大学は、自ら掲げる理念・目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度とその諸条件を整備し、その機能を十分に発揮することが必要である。同時に大学は、理念・目的に照らして教育研究活動の充実向上のための検証を行う必要がある。

また、理念・目的は、刊行物やホームページ等を通じて、学内の構成員に周知させるとともに、社会に対しても明らかにする必要がある。

大学は、こうした理念・目的自体の適切性についても定期的に検証し、その結果を改善に結びつける必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記 (1) に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、箇条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記 (2) に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
101	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	
	評価の視点	
	①	理念・目的を明確にしているか。
	②	理念・目的間の整合性は取れているか。
	③	実績や資源からみて理念・目的は適切か。
④	理念・目的の個性化	
年度始	現状の確認	
<p>工学研究科は、建学の精神と校訓(基準 No.1 大学全体シート参照)に基づき、「教育研究上の目的」を学則に、「教育理念及び教育方針と目標」を『大学及び学部・研究科の教育理念及び教育方針と目標』に定めている(資料1,2)。</p> <p>理念・目的は概ね適切であるが、各資源から見た適切性を明確にする必要がある。</p> <p>研究科の特徴が明確でない。理念・目的における研究科の特徴を明確にする必要がある。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<p>昨年度に引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績や資源からみた理念・目的の適切性を明確すべく検証を重ねる。 ・理念・目的における研究科の特徴を明確すべく検証を重ねる。 		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。	特になし。	
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
理念・目的における研究科の特徴を明確にする。	専攻主任会議などの場で検討をおこなう。	

項目No	点検・評価項目	
102	大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。	
	評価の視点	
	⑤	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性
	⑥	社会への公表方法
	⑦	明示媒体による違いはないか。
年度始	現状の確認	
<p>理念・目的はホームページ上で公表し、大学構成員のみならず社会にも広く周知している(資料3)。『大学及び学部・研究科の教育「教育理念及び教育方針と目標」』については、『履修要綱』にも掲載し、大学構成員への周知を図っている(資料4)。入学を志望する段階での受験のための案内書にも、本研究科の理念・目的を記載し、学生には入学前から事前周知を行っている。</p> <p>今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。</p> <p>理念・目的について、設置の趣旨(設置申請書類)、ホームページ、ガイドブック、『履修要綱』等における整合性を確認する必要がある。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<p>昨年度に引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的の周知方法の有効性について検証する。 ・理念・目的の設置の趣旨(設置申請書類)、ホームページ、ガイドブック、『履修要綱』等における整合性を確認し、整合性を取る。 		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
103	大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	
	評価の視点	
	⑧	定期的に検証を行っているか。
年度始	現状の確認	
工学研究科自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・目的の適切性を定期的に検証している(資料5)。		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
昨年度に引き続き、工学研究科自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・目的の適切性について当該委員会で定期的に検証を行う。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
	内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）
	研究科自己点検・評価委員会を6回開催し検証を重ねた(資料6)。	今後も継続的な検証をしていくことが必要。
改善すべき事項		
	内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）
	特になし。	特になし。

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）					
				昨年度			年度末		
				2015年度			2016年度		
				評価 視点	評価 項目	評価 基準	評価 視点	評価 項目	評価 基準
101	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	①	理念・目的を明確にしているか。	S	B	B	S	B	B
		②	理念・目的間の整合性は取れているか。	A			A		
		③	実績や資源からみて理念・目的は適切か。	A			A		
		④	理念・目的の個性化	B			B		
102	大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。	⑤	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性	A	B	B	A	B	B
		⑥	社会への公表方法	A			A		
		⑦	明示媒体による違いはないか。	B			B		
103	大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	⑧	定期的に検証を行っているか。	A			S		

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院学則 第5条第2項
2	大学及び学部・研究科の教育理念及び教育方針と目標
3	関東学院大学ホームページ「1.大学の教育研究上の目的に関すること」 (http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2016/disclosure_1-1.pdf)
4	2016年度履修要綱(工学部・大学院工学研究科)
5	関東学院大学大学院工学研究科自己点検・評価委員会規程
6	関東学院大学大学院工学研究科自己点検・評価委員会議事録(2016年度4月、5月、9月、10月、11月、3月)

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
3	教員・教員組織

大学は、大学として求める教員像や教員組織の編制の方針を明確に定め、学部・研究科等の教育課程、学生収容定員等に応じた教育研究上必要な規模の教員組織を設けるとともに、組織ごとに十分な教員を配置し、教育と研究の成果を上げる必要がある。また、大学は、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し教育研究に係る責任の所在が明確になるよう教員組織を編制する必要がある。

大学は、教員の募集、採用、昇任等を適切に行うとともに、その地位の保障にも十分に配慮する必要がある。教員の採用に際しては、広く国内外に人材を求める等人事の活性化を図るとともに、明文化された基準と手続きに従い、公正かつ適切な方法で採用を行わなければならない。その際、大学は高度の教育機関であるとともに、学術研究の中心機関でもある点を考慮し、人格、教育研究指導上の能力、教育業績、研究業績、学界および社会における活動実績等に留意して、候補者を選考する必要がある。また、特定の範囲の年齢に偏ることのないよう教員の年齢構成に留意するとともに、男女共同参画社会の実現に向けて教員の適正な男女比構成にも配慮することが重要である。

大学は、教員の資質向上を図るために、組織的に、また、多面的に必要な措置を講じなければならない。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、簡条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、簡条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、簡条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	
	評価の視点	
	①	教員に求める能力・資質等を明確にしているか。
	②	教員構成を明確にしているか。
③	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。	
年度始	現状の確認	
<p>工学研究科の教員に求める能力・資質を関東学院大学大学院工学研究科教員選考基準および関東学院大学大学院工学研究科教員選考に関する内規に教員の選考基準として定めている(資料1、2)。</p> <p>研究科教員構成として研究科委員長のもとに各専攻主任を配置し、専攻主任が専攻内での議論を活かす運営体制を整えている。</p> <p>研究科の意思決定・調整機関として研究科委員会を設置し教育・研究にかかる責任の所在を明らかにするとともに、研究科委員会のもとに、自己点検・評価委員会、FD委員会等を設置し、教員の参加と役割分担を明確にして組織的な連携体制を構成している。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<p>「教員の使命と役割」の明文化等について確認する。</p> <p>法令で規定されている要件を満たしているか確認する。</p> <p>教育に関する諸権限と責任は、教員個人ではなく教育組織に帰属していることについて確認する。</p>		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
	評価の視点	
	④	編制方針に沿った教員組織を整備しているか。
	⑤	専任教員の年齢構成等は適切か。
	⑥	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。
	⑦	研究科担当教員の資格を明確にしているか。(研究科、法務研究科)
⑧	研究科担当教員を適正配置しているか。(研究科、法務研究科)	
年度始	現状の確認	
<p>設置基準上必要となる教員数を満たす研究科の教員を配置している(資料3)。 博士後期課程については、2016年度より1研究科2専攻(総合工学専攻及び建築学専攻)となった(資料4)。 これに伴い、機械工学・電気工学・土木工学・工業化学の各専攻は、総合工学専攻の中に入り、総合的な研究指導体制を敷くこととなる。そのために電気工学専攻に所属し、機械工学専攻と協力してロボット分野の研究教育を行っているD合教授が2014年度に移籍した(資料3)。 カリキュラムの作成において、教員の専門分野との適合性を判断している。教員組織編成(科目担当教員および指導教授)については、その適切性の検証に関する責任主体は工学研究科委員会が担っている。 科目担当教員及び研究指導担当教員の資格については、関東学院大学大学院工学研究科教員選考基準及び関東学院大学大学院工学研究科教員選考に関する内規を定め明確化しており、その配置については専門分野毎にマル合教員を中心にグループ化し講義科目を調整するなど適正化を行っている(資料1、2)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<p>「教員組織の編制方針」(明示有無や明文化されている内容等)について再度確認する。 恒常的チェック体制を再度確認し、整備する。 「恒常的チェック体制が整備され機能しているか」について確認する。</p>		
年度末	点検(振り返り)	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容(特色ある取組や成果創出など)		伸長方策(将来に向けた発展方策)
後期課程に材料・表面工学専修を新設した。		今後も教員編成の最適化を進めていく。
改善すべき事項		
内容(明らかになった課題点など)		改善方策(将来に向けた発展方策)
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	
	評価の視点	
	⑨	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確にしているか。
	⑩	規程等に従った適切な教員人事を行っているか。
年度始	現状の確認	
<p>大学院担当教員は学部教員の兼担であるため、採用人事は学部教授会を通じて、大学全体の規程・基準・方針に基づいて定めた教員像に沿って教員を選考している。</p> <p>大学院担当への新任・昇格人事については、工学研究科人事委員会で審査している。大学院担当への昇格に際しては、大学院での教育経験年数を前提に審査されるようにしている。規程等に基づき、工学研究科人事委員会を中心に資格審査を行って、工学研究科委員会がこれを審議・承認している。なお、資格審査については、研究業績に加えて社会的活動状況、大学院生の研究指導経験などにより行っている(資料1、2)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
教員の募集・採用・昇格を適切に行う。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
304	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。 ※ ここでの FD は「教員の資質向上」に関する活動を指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No. 434 参照。	
	評価の視点	
	①	教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。
	②	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性
年度始	現状の確認	
<p>2013 年度より、専任教員の自己点検・評価を開始した。2015 年度についても全専任教員に教員の教育研究活動について自己点検・評価シートの提出を求めている。</p> <p>FD 活動については、毎年、大学院生による教育・研究指導評価、FD 研修会をそれぞれ開催し、教員相互の教育研究に関する情報共有を推進している。</p> <p>また、専攻によっては、修士論文審査を控えた早い段階(最も早い場合は博士前期課程 1 年次)から、研究指導を受ける主査と副査を仮決めし、複数教員による指導体制を確立している。これは、大学院生にとっては、1 人の指導教員に限らず、他の教員からもアドバイスを受けることができ、審査を担当する教員においては、相互刺激を期待できる仕組みである(資料 5)。</p> <p>なお、2016 年度から従来は学部と合同で設けていた FD 委員会を工学研究科単独で立ち上げた(資料 6)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
各方策の有効性について検証する。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
教育研究環境改善アンケートを実施して課題を抽出し改善。	今後、より詳細な情報をアンケートから得るようにしていく。	
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。	特になし。	

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）					
				昨年度			年度末		
				2015年度			2016年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	①	教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	A	B		A	B	
		②	教員構成を明確にしているか。	A			A		
		③	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。	B			B		
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	④	編制方針に沿った教員組織を整備しているか。	B	B	B	A	B	B
		⑤	専任教員の年齢構成等は適切か。	B			B		
		⑥	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。	B			B		
		⑦	研究科担当教員の資格を明確にしているか。（研究科、法務研究科）	B			B		
		⑧	研究科担当教員を適正配置しているか。（研究科、法務研究科）	B			A		
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	⑨	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確にしているか。	A	A		A	A	
		⑩	規程等に従った適切な教員人事を行っているか。	A			A		
304	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。	⑪	教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。	A	A		S	A	
		⑫	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性	A			A		

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院工学研究科教員選考基準
2	関東学院大学大学院工学研究科教員選考に関する内規
3	2016 年度大学院工学研究科委員会(博士前期課程・博士後期課程)構成員
4	2015 年度第 4 回大学院工学研究科委員会議事録
5	2016 年度 4 月大学院工学研究科委員会議事録
6	工学研究科 FD 委員会規程(2016 年 3 月工学研究科委員会議事録)

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
4	教育内容・方法・成果
41	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

大学は、その理念・目的を実現するために、教育目標を定めこれに基づき「学位授与方針（DP）」および「教育課程の編成・実施方針（CP）」を明示しなければならない。

「DP」には、学位の授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示す必要がある。また、「CP」には、教育内容、学修時間、科目の履修順序など教育活動の体系性を示すとともに、教育課程を構成する授業科目の科目区分、授業形態、教育方法など教育課程を円滑に実施するための基本的方策の枠組みを示す必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、簡条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、簡条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、簡条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
411	教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	
	評価の視点	
	①	教育目標を明示しているか。
	②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。
	③	教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性は取れているか。
④	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示しているか。	
年度始	現状の確認	
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育目標の明示について 教育目標(教育方針と目標)を明確に示している(資料1)。 ● 3ポリシー(学位授与方針(ディプロマ・ポリシー))の明示について 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシー(以下「3ポリシー」という。)を示しているが、大学院全体版に即し、再策定を進めているところである(資料1)。 ● 学位授与の要件(修了の要件)の明示について 学位授与の要件(修了の要件)について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している(資料2~4)。 		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・文科省指針を待って研究科3ポリシーを策定する。 ・教育目標と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を取る。 ・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に修得すべき学修成果を明示する。 		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	
	評価の視点	
	⑤	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。
	⑥	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性は取れているか。
⑦	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。	
年度始	現状の確認	
<p>● 3 ポリシー(教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー))の明示について 研究科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシー(以下「3ポリシー」という。)については、文科省指針を待って作成をする方針である(資料1)。</p> <p>● 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について 授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している(資料2～4)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
・研究科3ポリシーを作成するとともに、それらの間の整合性を取る。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
413	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が、大学構成員（学生・教職員）に周知され社会に公表されているか。	
	評価の視点	
	⑧	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性
	⑨	社会への公表方法
年度始	現状の確認	
<p>教育目標、学位授与の要件（修了の要件）、授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、履修要綱およびホームページに掲載し、学生・教職員への周知および社会への公表を行っている（資料4、5）。</p> <p>なお、研究科3ポリシーは、大学院全体版に即した再策定に合わせて、ホームページおよび履修要綱への掲載について整備する必要がある。</p> <p>今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省指針を待って研究科3ポリシーを策定し、ホームページおよび履修要綱への掲載を行う。 ・ 引き続き周知方法の有効性について検証していく。 		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
414	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っているか。	
	評価の視点	
	⑩	定期的に検証を行っているか。
年度始	現状の確認	
<p>研究科委員会および自己点検・評価委員会を中心に、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について、定期的に検証を行っている(資料6、7)。現在、教育目標の達成状況について、学生(大学院生)および教職員によるアンケート調査により評価することを検討中である。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<p>・本年度作成予定の研究科3ポリシーにもとづき、教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性について定期的に検証を行っていく。 ・教育目標の達成状況について、学生(大学院生)および教職員によるアンケート調査により評価することを実施する。</p>		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）						
				昨年度			年度末			
				2015年度			2016年度			
				評価 視点	評価 項目	評価 基準	評価 視点	評価 項目	評価 基準	
411	教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	①	教育目標を明示しているか。	A	B	B	B	B	A	B
		②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。	A					A	
		③	教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性は取れているか。	B					B	
		④	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示しているか。	C					C	
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	⑤	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。	A	A	B	A	A	B	A
		⑥	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性は取れているか。	A						A
		⑦	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。	A						A
413	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が、大学構成員（学生・教職員）に周知され社会に公表されているか。	⑧	大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性	B	A	A	A	A	A	B
		⑨	社会への公表方法	A						A
414	教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っているか。	⑩	定期的に検証を行っているか。	A						A

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学 理念・目的等 p.65～69
2	関東学院大学大学院学則 第2～3章
3	関東学院大学工学研究科履修規程
4	工学部・大学院工学研究科「2016年度履修要綱」
5	関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」(1.大学の教育研究上の目的に関する事、5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関する事、6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関する事) http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/index.php/ja/home/about-university/overview/information-of-university.html
6	関東学院大学大学院工学研究科委員会規程
7	関東学院大学大学院工学研究科自己点検・評価委員会規程

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
4	教育内容・方法・成果
42	教育課程・教育内容

大学は、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成する必要がある。

教育課程の編成にあたっては、いずれの専門分野にあっても、国際化や情報化の進展、また学術の動向や社会からの要請等に留意しつつ、それぞれの課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。その際、学部・研究科等の教育目標、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し体系的かつ効果的に編成する必要がある。

また、いずれの課程においても各課程にふさわしい教育内容を提供する必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、簡条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、簡条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、簡条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
421	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
	評価の視点	
	①	必要な授業科目が開設されているか。
	②	順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。
	③	専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。（学部）
	④	コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。（研究科）
⑤	教育課程の体系および順次性を明示しているか。	
年度始	現状の確認	
<p>2016年度から機械工学専攻、電気工学専攻、情報学専攻、建築学専攻、土木工学専攻、物質生命科学専攻から成る博士前期課程および総合工学専攻（機械工学専修、電気工学専修、数物科学専修、情報学専修、土木工学専修、応用化学専修、生命科学専修）、建築学専攻から成る博士後期課程により、教育課程を編成している。各専攻課程においては、学則および履修規程、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、必要な授業科目を開設し、修了要件を定めている（資料1～4）。</p> <p>各専攻課程においては、各専修分野を設置し、専修科目（必修科目を含む）および選択科目に授業科目を区分して、教育課程を体系的に編成している。</p> <p>機械工学専攻では、計測・制御工学専修、機械情報工学専修、材料力学・設計工学専修、流体工学専修、熱工学専修、材料・生産工学専修の専修科目を開設している。</p> <p>電気工学専攻では、電波・通信工学専修、電子物性工学専修、電気エネルギー工学専修、健康・人間医工学専修、数物科学専修、情報システム工学専修、情報メディア工学専修、情報数理科学・物理工学専修の専修科目を開設している。</p> <p>情報学専攻では、通信工学専修、情報システムデザイン専修、情報メディア工学専修の専修科目を開設している。</p> <p>建築学専攻では、設計・計画系、構造・生産系、環境工学・設備工学系に分けて専修科目を開設している。設計・計画では、建築・都市計画専修の専修科目を開設している。構造・生産系では、建築構造専修、建築生産専修の専修科目を開設している。環境工学・設備工学系では、建築設備・環境工学専修の専修科目を開設している。</p> <p>土木工学専攻では、構造工学専修、コンクリート・材料工学専修、地盤・防災工学専修、水・環境工学専修、計画学専修の専修科目を開設している。</p> <p>物質生命科学専攻では、有機・高分子化学専修、無機材料・固体物理化学専修、電気化学・表面工学専修、生命科学専修、環境化学工学専修の専修科目を開設している。</p> <p>総合工学専攻博士後期課程では、機械工学専修、電気工学専修、数物科学専修、情報学専修、土木工学専修、応用化学専修、生命科学専修の専修科目を開設している。</p> <p>学生は入学時に履修する専修を選択し、専修科目として講義、文献研究、研究実験（演習を含む）を履修する。なお、専修科目を担当する教員が指導教授（指導教員）となり、指導教授の指示を受けながら履修する科目を選択する。</p> <p>また、順次性のある授業科目を配置しており、科目名に「Ⅰ」「Ⅱ」を付記することで、その順次性を明示している。</p> <p>さらに、コースワークとしての講義科目と、リサーチワークとして研究実験科目、文献研究科目、特殊研究科目を配置し、バランスのとれた教育体系になっているといえる。</p> <p>そして、修了要件として、博士前期課程においては、専修科目を含み30単位以上の修得を求めている。博士後期課程においては、専修科目を含めて8単位以上の修得を求めている。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
引き続き、開設科目の適切性、教育課程の体系的編成について検討していく。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
留学生を受け入れやすくするため、すべての通年科目を半期に分けた（資料5）。	2017年度の検証を経て改善点があれば改善する。	
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。	特になし。	

項目No	点検・評価項目
422	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
	評価の視点
	⑥ 学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。（学部）
	⑦ 初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。（学部）
	⑧ 専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。（研究科）
	⑨ 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。（法務研究科）
⑩ 教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。	
年度始	現状の確認
<p>内外における学修を推進し、多様な人々と協働できる能力、コミュニケーション能力および国際感覚を身に付けた人材を育成している。また、産官学連携および連携大学院教育を積極的に行い、多様な大学院教育を展開することにより、必要とされるイノベーション能力を身に付けた人材を育成している。</p> <p>機械工学専攻では、各専修と学部とが有機的に連携を取って教育研究活動を行っている。また、「ものづくり」の原点に立って、理論やシミュレーションに留まらず、実験・演習を組み込んだ先端技術の修得に力を入れている。さらに、研究成果を国内外の学会等で発表することを奨励し、幅広く関連する専門知識の取集を図り、さらに社会的および国際的感覚を有する人材を育成している。また、博士前期課程においては、学部で得た基礎知識を基に、技術革新に対応できる高度の専門的能力を修得できるように教育課程を整備し、社会で即戦力となる人材を育成している。博士後期課程機械工学専修においては、大学、公的機関、企業等で自立して研究活動を行うことができる研究者を育成するため、主体的に創造的アイデアをもって製作・実験や研究ができるよう指導している。</p> <p>電気工学専攻では、各専修において専門性を高めるとともに、創造力、グローバルな視野、プレゼンテーション能力も向上させるべく、教育研究を行っている。博士前期課程においては、学部教育との一貫性を保つことを特に重視し、技術者そして研究者として必要となる基本的なスキルを十分身に付けた上で、より発展させた専門知識の教育を行っている。博士後期課程電気工学専修においては、研究分野に関する高度な専門知識だけでなく、関連する分野の知識についても学修したうえで、国際的な視野にたつて次世代の新しい枠組みを創造し、社会への貢献を目指した高い論理観を身に付けられるような研究指導を核に行っている。</p> <p>情報学専攻では、理工学部理工学科情報学系(情報ネット・メディアコース、映像クリエイションコース)における教育を継承し、通信工学、情報システムデザイン、情報メディア工学の3専修分野を設定して教育・研究を行う。それぞれの専修分野では、インターネットをはじめとする情報通信、様々な機器・システムに組み込みや実装するためのシステムデザイン、マルチメディアのそれぞれに関する技術開発や利用技術を研究する情報メディアに精通した高度な専門技術者を養成していく。</p> <p>建築学専攻では、各専攻の専門性を求めることができる教育研究を行っている。一方で、各分野の専門科目を相互に履修することで、総合的に高度な建築技術が修得できるように配慮している。また、段階的な教育・研究内容のレベルを設定し、その充実を図るとともに、学部からの一貫性と関連性のある密度の高い教育研究を行っている。さらに、基礎的な専門技術とともに、建築業界で実践されている先端技術や実用性の高い技術に精通した人材を科目担当者に起用して教育研究の充実を図っている。他にも、専門科目での設計・研究成果を国内外の交流のある大学機関等で発表する機会を設け、幅広く専門知識の取集を図り、国際感覚を有する人材を育成している。なお、博士前期課程においては、一級建築士受験の実務経験認定科目として、各分野別に設計実務を体験するインターンシップ科目および設計関連の専門科目により、資格試験への対応に配慮した実践的な教育を行っている。</p> <p>土木工学専攻では、博士前期課程において、学部での教育によって得た成果を発展させ、研究分野に関する幅広い専門的知識を修得させるとともに、分野横断的な学修により、広い学識をも修得させる教育を行っている。また、基礎研究を重視して、高度の専門的能力と創造性及び幅広く深い教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成している。博士後期課程土木工学専修においては、研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識の修得に加え、研究を通して、研究企画・推進能力、研究成果の説明能力を身に付け、学術研究における高い倫理性等を備えた新しい研究分野の創造を目指す研究者を育成している。</p> <p>物質生命科学専攻博士前期課程および博士後期課程の応用化学専修、生命科学専修では、学部教育とさらなる連携を強めた一貫型の教育を行っている。また、産業界との連携による実践的な教育を行っている。さらに、社会人基礎力、国際性の涵養などの人材育成を行っている。</p>	
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定
<p>・本年度新たに策定する予定の研究科カリキュラム・ポリシーに基づき、各課程に相応しい(専門分野の高度化に対応した)教育内容を提供していく。</p>	

年度末		点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項			
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		特になし。	
改善すべき事項			
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。		特になし。	

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）						
				昨年度			年度末			
				2015年度			2016年度			
				評価 視点	評価 項目	評価 基準	評価 視点	評価 項目	評価 基準	
421	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①	必要な授業科目が開設されているか。	A	A	A	S	A	A	
		②	順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。	A			S			
		③	専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。（学部）							
		④	コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。（研究科）	A			A			
		⑤	教育課程の体系および順次性を明示しているか。	-			-			
422	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	⑥	学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。（学部）		A	A		A	A	
		⑦	初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。（学部）							
		⑧	専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。（研究科）	A			A			A
		⑨	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。（法務研究科）							
		⑩	教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。	-			-			

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院学則 第2、3章
2	関東学院大学大学院工学研究科履修規程
3	関東学院大学 理念・目的等 p.65～69
4	工学部・大学院工学研究科「2016年度履修要綱」
5	2016年6月大学院工学研究科委員会議事録

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
4	教育内容・方法・成果
43	教育方法

大学は、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針に基づき、適切な授業形態を採用するとともに、教育効果を十分に発揮するために、教育方法の改善に多面的な努力を払う必要がある。

学生の学修意欲を促進させるために、適切な履修指導を行うとともに、適切なシラバスを作成し授業計画に基づいて教育研究指導を行い、授業形態、授業方法にも工夫を凝らすなど、学修の活性化のための十分な措置を講ずることが必要である。

履修単位の認定方法に関しては、各授業科目の特徴や内容、履修形態等を考慮し、期待する学習成果を見極めながら、単位制の趣旨に沿った措置をとることが必要である。また、教育の質を保証するために、厳格かつ適正な成績評価を行う必要がある。

大学は、教育水準の維持・向上のために、ファカルティ・ディベロップメント (FD) の一環として、授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究を実施するとともに、教育内容・方法および教育上の効果を定期的に検証し、その結果を改善に結びつける必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、簡条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、簡条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、簡条書きしてください。

項目No	点検・評価項目
431	教育方法および学修指導は適切か。
	評価の視点
	① 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）を採用しているか。
	② 履修科目登録の上限を適切に設定しているか。
	③ 学修指導が充実しているか。
	④ 学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。
	⑤ 研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。（研究科）
⑥ 実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。（法務研究科）	

年度始	現状の確認
-----	-------

教育目標の達成に向け、授業科目毎に到達目標を定め、適切な授業形態を採用している。なお、授業科目毎の到達目標および授業形態はシラバスに明記している(資料1)。

履修科目登録の上限においては、上限の設定はしていないが、学生は科目の選定および履修にあたっては、指導教授の指導を受けなければならない旨を履修規程に定め、指導体制の構築により履修科目登録数の適切性を補完している(資料2)。

学修指導においては、各学期開始時に履修指導を実施している。そして、研究指導計画に基づいた研究指導・学位論文作成指導を行っている。また、授業科目担当者の全員にオフィスアワーを設定し、シラバスに明示することで、学生への学修指導のさらなる充実を図っている。学生は指導教授以外の教員からもアドバイスを受けることができる。

他にも、修士論文の審査会が近づいた時期に主査・副査を決めて、提出された論文だけの審査をするのではなく、入学時からの複数教員による指導制を構築し、学部卒業生とは異なる能力や価値を身に付けさせている。プレゼンテーションの技法のみならず、その発表内容を充実させることが大事である。また、学生は自身のテーマとしている狭い範囲の知識だけでなく、それぞれの専攻における幅広い基礎的な内容を身に付けることを同時に目指すことができる。

さらに、文献研究科目では輪講形式による授業を行い、研究実験科目ではプレゼンテーションの機会を多く設け、学生の主体的参加を促している。

履修規程、論文審査、学位論文審査基準、学位取得のプロセス等については、履修要綱に明示している(資料3)。また、シラバスと合わせて、ホームページでも公表している(資料4、5)。

年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定
-----	-------------------

- 昨年度に引き続き、
- ・適切な授業形態を採用していく。
 - ・学修指導を充実させる。
 - ・学生の主体的参加を促すように授業方法を工夫していく。
 - ・研究指導計画に基づいた適切な研究指導・学位論文作成指導を行っていく。

年度末	点検（振り返り）
-----	----------

効果が上がった事項 もしくは 改善された事項

内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）
論文評価基準を履修要綱に記載し、学生への周知を図るとともに、論文審査報告書にそのチェックリストの添付を義務化した(資料9)。	今後も継続して審査チェック体制および基準の明確化、透明化を図っていく。

改善すべき事項

内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。	特になし。

項目No	点検・評価項目	
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
	評価の視点	
	⑦	シラバスの内容の充実を図っているか。
	⑧	授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。
⑨	シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。	
年度始	現状の確認	
<p>WEBシラバスシステムを導入し、全学部・研究科で統一書式による運用を行っている。また、シラバスの内容に対する組織的な検証体制を拡充させるために、段階的に組織的なシラバスチェック体制の整備を行うことを全学的に決定している。本研究科においては、2015年度から組織的な検証が実施できるよう、専攻主任会議、工学部・工学研究科FD委員会で検討を行っている。なお、シラバス記載内容の履行については、秋学期に実施している「教育・研究指導改善アンケート」の回答結果を検証し改善に繋げている(資料6)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
昨年度に引き続き、工学研究科FD委員会で組織的なシラバスチェックを行っていく。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
シラバスチェックを行い、問題のある科目については指導をした。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
	評価の視点	
	⑩	成績評価方法・評価基準を明示しているか。
	⑪	単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。
⑫	既修得単位認定は適切に行われているか。	
年度始	現状の確認	
<p>学則に基づき履修規程を定め、成績評価および単位認定を適切に行っている(資料2、7)。</p> <p>成績評価について、原則、学期末に実施する試験等に合格することで単位を認定しているが、レポート提出や授業への積極的な参加等の複合的な方法による成績評価も行われている。2015年度は、試験の実施が5%、レポート提出が78%、それ以外が17%であった。</p> <p>単位認定について、単位の算定基準を定め、それに基づき授業科目の単位数を設定している。また、博士前期課程では、神奈川県内の大学間における学術交流協定大学の大学院において特別聴講学生として修得した単位、入学前に他大学院において修得した単位、科目等履修生として修得した単位について、研究科委員会の審議を経て、合わせて10単位を超えない範囲で単位認定を行っている。なお、神奈川県内の大学間における学術交流協定大学の大学院において特別聴講学生として修得した単位については、修了要件に算入できるのは4単位までとしている。</p> <p>成績評価方法・基準については、シラバスにより学生に明示している(資料1)。また、成績の評価および単位制度、単位の認定等、履修規程については、履修要綱において学生に明示している(資料3)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
昨年度に引き続き、成績評価と単位認定を適切に行う。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目
434	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 ※ ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動を指す。「教員の資質向上」に関する活動は、点検・評価項目 No. 304 参照。
	評価の視点
	⑬ 教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。
年度始	現状の確認
<p>FD 委員会において、「教育・研究指導改善アンケート」の実施および結果の検討を行い、授業方法の改善を図っている(資料 8)。</p> <p>2015 年秋学期に実施された「教育・研究指導評価アンケート」に対する回答数は、今年度から回答方式を WEB 方式に変更したためもあってか、2014 年度に比べて若干減少し、博士前期課程は在籍学生数 62 名に対して 37 名(45 名)、博士後期課程は在籍学生数 24 名に対して 4 名(15 名)であった。</p> <p>まず博士前期課程については、10 項目中 6 項目(3 項目)において 4.0 以上の高い評価が得られており、単純に数だけで見れば 2014 年の倍の高評価となっている。回答者数が減少したとはいえ、概して大学院生の満足度は向上傾向にある。中でも「研究を進めていく上で教員の指導が適切である」が 4.50(4.29)で最も高く、以下、「自習スペースが十分に確保されている」が 4.25、「個々の授業科目がシラバスに準拠して行われている」が 4.22、「オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる環境が整っている」が 4.17 と続いており、近年の授業評価やシラバスチェックなどの影響がよい方向に出てきているものと考えられる。また、自由回答の記述においては、研究指導や研究環境に対する満足度の高さを示す記述が見受けられる一方、一部では教員の学生対応や履修登録スケジュールに関する不満も見受けられた。</p> <p>2014 年度評価が比較的低かった「研究を進めていく上で必要な図書や関連資料が整っている」に関しては 4.0 以上の高い評価が得られており、大学院の授業環境の改善効果が認められる。ただし、「研究設備(実験設備・パソコン等)が十分に整備されている」や「授業時間割がバランスよく配置されている」に関しては、3.6~3.8 とあまり高い評価とはなっておらず今後検討していく必要がある。</p> <p>つぎに博士後期課程については、10 項目中 8 項目(4 項目)において 4.0 以上の高い評価が得られているが、回答者数が 4 件(15 件)と少ないため、評価は参考程度に留めておくべきである。</p> <p>個別の評価項目を見ると、2014 年同様「研究を進めていく上で教員の指導が適切である」が 4.50(4.13)で最も高く、「学位取得のための道筋が明確に示されている」「提示されたカリキュラムが適切である」が同じ 4.25 でこれに続いている。逆に、「研究を進めていく上で必要な図書や関連資料が整っている」が 3.25、「将来設計・進路等に関して適切な指導や相談が行われている」が 3.50 などとなり前期課程の結果と比して評価が低かった。引き続き点検、整備を継続していくことが必要であろう。</p> <p>注) ()内は 2014 年度の数値</p>	
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定
昨年度に引き続き、教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施していく。	
年度末	点検(振り返り)
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項	
内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)
教育・研究指導改善アンケートの結果にもとづき、学生の不満や要望、要改善点の抽出を行った(資料 10)。	特になし。
改善すべき事項	
内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)
特になし。	特になし。

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）						
				昨年度			年度末			
				2015年度			2016年度			
				評価 視点	評価 項目	評価 基準	評価 視点	評価 項目	評価 基準	
431	教育方法および学修指導は適切か。	①	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）を採用しているか。	A	A	A	A	A	A	
		②	履修科目登録の上限を適切に設定しているか。	A						A
		③	学修指導が充実しているか。	A						A
		④	学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。	A						A
		⑤	研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。（研究科）	A						S
		⑥	実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。（法務研究科）							
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。	⑦	シラバスの内容の充実を図っているか。	A	A	A	A	A	A	
		⑧	授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。	A						A
		⑨	シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。	A						A
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。	⑩	成績評価方法・評価基準を明示しているか。	A	A	A	A	A	A	
		⑪	単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。	A						A
		⑫	既修得単位認定は適切に行われているか。	A						A
434	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	⑬	教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。	A				S		

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	年間の授業計画の概要(Web シラバス) https://info.kanto-gakuin.ac.jp/portal/slbsskgr.do?clearAccessData=true&contenam=slbsskgr&kjnmnNo=7
2	関東学院大学工学研究科履修規程
3	工学部・大学院工学研究科「2016 年度履修要綱」
4	関東学院大学ホームページ「5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること」 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2016/disclosure_5-2-4.pdf https://info.kanto-gakuin.ac.jp/portal/slbsskgr.do
5	関東学院大学ホームページ「6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること」 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2016/disclosure_6-2-4.pdf http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2015/disclosure_6-3-4.pdf http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2016/disclosure_6-6.pdf
6	2015 年度秋学期実施「教育・研究指導改善アンケート報告書」
7	関東学院大学大学院学則 第 2 章
8	関東学院大学工学部・大学院工学研究科FD委員会規程
9	2016 年度 10 月大学院工学研究科委員会議事録
10	2016 年度秋学期実施「教育・研究指導改善アンケート報告書」

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
4	教育内容・方法・成果
44	成果

大学は、学習成果を的確に評価するために、その評価方法や評価指標の開発に努めなければならない。

大学は、いずれの課程においても、明示された学位授与方針に基づき、一定の成果を修めたと認定された学生に対して、学位を授与する必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、箇条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
441	教育目標に沿った成果が上がっているか。	
	評価の視点	
	①	学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。
	②	学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。
年度始	現状の確認	
<p>大学院においては、専門分野の高度性から、学位の取得が学修成果を測る最も適切な指標であり、毎年適切な審査により学位取得者を輩出していることから、教育目標に沿った学修成果が上がっているといえる。本研究科においては、就職状況および研究成果の公表件数等を評価指標として用いることも検討している。</p> <p>なお、学生の自己成長評価については行っていない。また、卒業後の評価(就職先評価や卒業生評価等)については、研究室および専攻単位での把握に留まっており、研究科全体としての取りまとめには至っていない。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
学生の自己評価方法および卒業後の評価について、検討を始めていく。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
学生の自己成長評価については行っていない。また、卒業後の評価(就職先評価や卒業生評価等)について研究科全体としての取りまとめには至っていない。		学生の自己評価方法および卒業後の評価について、検討を始めていく。

項目No	点検・評価項目	
442	学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。	
	評価の視点	
	③	学位授与基準、学位授与手続きは適切か。
	④	学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。（研究科、法務研究科）
年度始	現状の確認	
<p>学則および学位規則、その他関連規程に基づき、履修規定等を定め、学位授与の基準や手続き等について履修要綱等に明示およびホームページに公表している。そして、専攻会議の議を経て、研究科委員会および研究科委員長会議において厳正な査定（審議・承認）を行い、学位授与を適切に行っている（資料1～11）。</p> <p>学位取得の要件および論文審査については、履修規程に定め、履修要綱に明示している。また、履修要綱には履修規程のみならず、修士論文および博士学位論文審査の内規や、学位論文審査基準、修士論文および課程博士審査の手順についても明示している。</p> <p>博士前期課程においては、最低3名の教員による論文審査と、それに引き続く発表会での質疑応答によって、学位授与の可否を決定している。審査の手続きについては明確化し、学生にも周知している。博士後期課程においても、論文審査の手続きについて学生に明示し、これに従い審査を進めている。</p> <p>なお、両課程において、論文の内容に関する評価は審査委員に任されているが、明確な基準を設定する必要があり、自己点検・評価委員会で検討している。2013年度に受審した大学基準協会による認証評価においても、「学位論文審査基準が明文化されていないため、課程ごとに履修要綱等に明記し、あらかじめ学生に明示するよう、改善が望まれる」との提言を努力課題として受けていたため、学位論文審査基準については2014年度、2015年度中に整備を終了し、2016年度履修要綱にこれを記載することとした（資料8）。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
引き続き、学位授与の適切性を検証していく。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）	伸長方策（将来に向けた発展方策）	
学位論文審査基準を履修要綱に記載した。また、論文審査報告書にそのチェックリスト添付を義務化した（資料12）。	特になし。	
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）	改善方策（将来に向けた発展方策）	
特になし。	特になし。	

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）					
				昨年度			年度末		
				2015年度			2016年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
441	教育目標に沿った成果が上がっているか。	①	学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。	C	C	C	C	C	C
		②	学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。	C			C		
442	学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。	③	学位授与基準、学位授与手続きは適切か。	A	A	C	A	A	C
		④	学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。（研究科、法務研究科）	A			S		

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学大学院学則
2	関東学院大学学位規則
3	関東学院大学大学院研究科博士後期課程を経た者の学位論文審査に関する取扱内規
4	関東学院大学大学院研究科博士後期課程を経ない者の学位論文審査に関する取扱内規
5	関東学院大学大学院工学研究科履修規程
6	関東学院大学大学院工学研究科修士論文内規
7	関東学院大学大学院工学研究科博士学位論文審査に関する取扱内規
8	工学部・大学院工学研究科「2016 年度履修要綱」
9	工学研究科博士前期課程の課程修了に関する修士論文審査の報告及び査定方法について
10	博士前期課程修了要件についての申し合わせ事項
11	関東学院大学ホームページ「6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること」 http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2016/disclosure_6-2-4.pdf http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2015/disclosure_6-3-4.pdf http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2016/disclosure_6-6.pdf
12	2016 年度 10 月大学院工学研究科委員会議事録

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
5	学生の受け入れ

大学は、その理念・目的および教育目標を効果的に実現できるよう、学生の受け入れ方針および学生収容定員を定める必要がある。

大学は、入学者の選抜にあたり、その受け入れ方針を基礎とし、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒および外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な選抜制度を採用し、また運用するよう努める必要がある。

大学は、学生収容定員と在籍学生数の比率を適切に維持しなければならない。また、教育効果を十分にあげるために、過度な学生増は避け、大学の規模に見合う学生数を収容することが重要である。

大学は、入学者選抜が学生の受け入れ方針に基づいて公正かつ適切に実施されているかについて定期的に検証し、その結果を改善に結びつける必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、簡条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、簡条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、簡条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
501	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。	
	評価の視点	
	①	求める学生像（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））を明示しているか。
	②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性は取れているか。
	③	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。
④	障がいのある学生の受け入れ方針があるか。	
年度始	現状の確認	
<p>● 3 ポリシー(入学者受入方針(アドミッション・ポリシー))について 各研究科ホームページ、募集要項などの広報媒体で入学者受入方針を公開している(資料1~3)。 2016年度に文科省指針を待って3ポリシーの策定を行うこととした。したがって、現時点で大学院のポリシーは未策定であり、各方針の間での整合性は取れていない。</p> <p>● 修得しておくべき知識等の内容・水準について 工学研究科が求める基礎学力として大学で修得しておくべき内容について明示されていない。</p> <p>● 障がいのある学生の受け入れについて 障がいのある学生の受け入れ方針は、大学全体の姿勢に準じて工学研究科も対応している。受験生からの事前の申し出には、原則として来校していただき、就学上の措置まで見据えて、出願する研究科・専攻と直接、事前相談に応じている。その上で、研究科・専攻の各入学試験において適切な措置をとり、障がいのある学生も公平に受け入れている。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
文科省指針を待って工学研究科3ポリシーを策定する。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
502	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。	
	評価の視点	
	⑤	学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。
	⑥	入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切か。
年度始	現状の確認	
<p>学生募集および入学者選抜は、文部科学省の定める「大学入学者選抜実施要項」に則り、大学院入学者選抜規程を定めて実施している。大学院入学者選抜規程により大学入試委員会を設置し、各学部および研究科の入学試験に関わる基本事項を審議している。大学入試委員会では入学者選抜方法、入試日程、入試実施体制、入試査定原案(入試区分毎の合格者数)などを審議する。(資料4、5)</p> <p>入学者選抜方法においては、各専攻の専攻会議により作成審議された合格者選考案をもとに、大学院工学研究科委員長および各専攻の専攻主任からなる専攻主任会議において審議し、さらに研究科委員会の議を経て承認する。</p> <p>受験資格、選抜方法についても、入試区分ごとに詳細に定義し、入試広報やホームページで公開している。</p> <p>入学試験区分ごとの募集要項を公開するとともに、受験生に対して前年度の試験問題を公開して示すことで、入学者選抜における透明性を確保している。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
昨年度に引き続き、学生募集方法、入試選抜方法などの適切性について検証していく。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
春、秋ともに海外指定校推薦入試制度を導入した。		今後、新入試制度の検証を行いつつ、募集枠拡大策について検討する。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
	評価の視点	
	⑦	収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。
	⑧	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。
年度始	現状の確認	
<p>2015年度に春、秋の2度にわたって大学院入試説明を開催(資料6)した結果か、2016年度における定員充足率(収容定員に対する在籍学生数比率)は博士前期課程1年が1.07(収容定員44名:在籍学生数47名)と向上しており、その結果、前期課程全体としては0.89に改善している。また博士後期課程1年生も0.70(収容定員10名:在籍学生数7名)と向上し後期課程全体としても0.77と改善している。</p> <p>ただ、入学定員に対する入学者数比率の過去5年間の平均でみると、博士前期課程は適正な範囲であるが、博士後期課程については、適切な範囲を下回っている。</p> <p>今後、一層の努力と工夫によって入学者を増やす必要がある。</p> <p>博士前期課程については、社会人入学者や学内推薦入学者が多く、教育課程の編成・実施方針や学位授与方針に則った教育内容の充実をはかりつつ、研究科ホームページ等による広報に努める。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
今年度も入学希望者数の増加に向けて、大学院全体として、春、秋2回にわたる学内推薦入試説明会を実施する予定である。		
年度末	点検(振り返り)	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容(特色ある取組や成果創出など)		伸長方策(将来に向けた発展方策)
前期課程の収容定員の充足率は1倍を上回った。		学外からの志願者増に向けた方策を検討する。
改善すべき事項		
内容(明らかになった課題点など)		改善方策(将来に向けた発展方策)
特になし。		特になし。

項目No	点検・評価項目	
504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
	評価の視点	
	⑨	定期的に検証を行っているか。
年度始	現状の確認	
<p>大学入試委員会において、当年度の学生募集および入学者選抜結果について検証し、次年度の学生募集戦略および入学者選抜方法、入試区分毎の募集人数を検討している。</p> <p>研究科では研究科委員会をはじめ各委員会組織で学生募集および入学者選抜の適切性を検証している(資料7)。</p> <p>工学研究科では、研究科委員会において、募集および実施結果を承認するとともに、検証を行っている(資料7)。</p> <p>研究科委員会において、入試査定の中で、専攻ごとに合格基準と収容定員について検証している(資料7)。</p>		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
<p>今年度策定予定の研究科3ポリシーに従い、引き続き、学生募集および入学者選抜の公正性、適切性について検証していく。</p>		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）					
				昨年度			年度末		
				2015年度			2016年度		
				評価視点	評価項目	評価基準	評価視点	評価項目	評価基準
501	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。	①	求める学生像（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））を明示しているか。	A	C	C	A	B	B
		②	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性は取れているか。	C			B		
		③	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。	B			B		
		④	障がいのある学生の受け入れ方針があるか。	A			A		
502	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。	⑤	学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。	A	A	C	A	A	B
		⑥	入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切か。	A			A		
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	⑦	収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。	C	C	C	A	A	B
		⑧	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。	B			A		
504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	⑨	定期的に検証を行っているか。	A			A		

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	大学及び学部・研究科の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び入学者受入方針 (http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/disclosure_1-3.pdf)
2	「関東学院大学 大学院 ー工学研究科ー」 (http://grad.kanto-gakuin.ac.jp/modules/kougaku19/)
3	2016 年度 大学院学生募集要項
4	関東学院大学大学院入学者選抜規程
5	関東学院大学入試委員会規程
6	2015 年 5 月、11 月工学研究科委員会議事録
7	2016 年 4 月、10 月、2017 年 2 月工学研究科委員会議事録

2016年度 自己点検・評価シート

学部・研究科等名

工学研究科

基準No	基準項目
7	教育研究等環境

大学は、教育研究組織の規模や特性に応じて、必要にして十分な広さの校地・校舎を配備するとともに、大学の理念・目的を実現するために適切な施設・設備等を整備し、学生の学修と教員の教育研究環境を整えなければならない。とりわけ使用者の安全・衛生の確保に万全を期すとともに、学生の立場に立ったキャンパス環境の形成に努めることが重要である。

大学は、適切な規模の図書館を配備し、質・量ともに十分な水準の学術情報資料を系統的に集積し、その効果的な利用を促進する必要がある。また、図書館ネットワーク等を利用した、国内外の教育研究機関との学術情報の相互提供システムを講築することも重要である。

大学は、ティーチング・アシスタント（TA）やリサーチ・アシスタント（RA）等のスタッフを適切に配置し、学生の学修および教員による教育研究活動を支援すると同時に、教員研究費・研究室・研究時間の確保に留意し、また、研究倫理に関する規定類を明文化するなど、教員の教育研究活動の活性化を支援する環境を整備する必要がある。

I. 自己点検・評価

1. 自己点検（振り返り）

(1) 現状の確認 【年度始】

年度開始時の現状について、「点検・評価項目」毎に、「評価の視点」の状況を踏まえ、具体的・簡潔に記述してください。

(2) 方針・目標・取組・改善方策等の設定 【年度始】

年度開始時に、上記(1)に基づき、今年度の方針・目標・取組・改善方策等を設定し、箇条書きしてください。

(3) 点検（振り返り） 【年度末】

年度末に、上記(2)に対して、点検（振り返り）を行い、その内容を次のとおり記述してください。

⇒ 「効果が上がった事項」もしくは「改善された事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きしてください。

⇒ 「改善すべき事項」がある場合は、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きしてください。

項目No	点検・評価項目	
704	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	
	評価の視点	
	①	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。
	②	ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。
	③	教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。
年度始	現状の確認	
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備 教員には個室、院生には個別の学修空間が概ね与えられており、専門分野の教育研究を落ち着いた環境の中で深く実施しうる態勢となっている。また、学術フロンティア推進事業、ハイテクリサーチセンター整備事業、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の実施などを経て、各専攻とも基礎的な実験設備から先端的な設備までを一通り備えており、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備している。 ● TA、RA、技術スタッフ等の教育研究支援体制 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備している(資料1、2)。 ● 教員の研究費・研究室および研究専念時間 教員の研究費・研究室については確保されている。研究専念時間については専攻間や教員間で差があり、一律的な確保が難しい状況である。 		
年度始	方針・目標・取組・改善方策等の設定	
引き続き、教育研究等を支援する環境や条件の適切な整備をより一層進めていく。		
年度末	点検（振り返り）	
効果が上がった事項 もしくは 改善された事項		
内容（特色ある取組や成果創出など）		伸長方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。
改善すべき事項		
内容（明らかになった課題点など）		改善方策（将来に向けた発展方策）
特になし。		特になし。

2. 自己評価（評定）

年度末に、上記「1.」で実施した点検（振り返り）の結果に基づき、各項目について4段階（S, A, B, C）による評価（評定）を行い、その結果を記入してください。評価の方針（原則）については、実施要領の別紙⑦「自己点検・評価シートにおける評価（S, A, B, C）方針」を参照してください。 【年度末】

項目No	点検・評価項目	評価の視点		評価（評定）							
				昨年度			年度末				
				2015年度			2016年度				
				評価 視点	評価 項目	評価 基準	評価 視点	評価 項目	評価 基準		
704	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	⑪	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。	A	A		A	A			
		⑫	ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。	A			A			A	A
		⑬	教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。	A			A				

※ 評価基準：基準項目に対する評価

評価項目：点検・評価項目に対する評価

評価視点：評価の視点に対する評価

3. 根拠資料

上記「1.」で示した根拠資料について記載してください。

資料No	根拠資料の名称
1	関東学院大学ティーチング・アシスタントに関する規程
2	関東学院大学環境共生技術フロンティアセンター及びハイテク・リサーチ・センター リサーチ・アシスタントに関する規程